

整理番号	19-59	事務事業名	北海道傷痍軍人会 北広島市分会補助事業		作成部署	保健福祉部 福祉課	電話	内線800
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	上村 弘志	課長職名	小西 洋一	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度		根拠法令等						
" 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)								

## 1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	安全で安心できるまち	(第1章)
	節	地域福祉	(第2節)
	施策	地域福祉推進体制の充実	(第1施策)
目的 (ここから成果指標を導きます)	対象 (誰、又は何を)	市内に居住する傷痍軍人	
	意図 (何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	傷痍軍人への援護施策の適用漏れを防ぐため、恩給法や戦傷病者戦没者等援護法について周知を図る。	
手段 (ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	【傷痍軍人会の活動】 ・傷痍軍人に関する援護制度の説明会の開催 ・全国・全道傷痍軍人大会の参加 ・恩給法等に係る説明会への参加
		17年度	同上

## 2 実施(ドゥ)

## 【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	14	14	10	10
	合 計	14	14	10	10
人件費 (概算)	人数(年間)	0.01	0.01	0.01	0.01
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	90	90	90	90
総事業費 +		104	104	100	100

## 【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	総会開催日数	1日	1日	1日	1日
	研修会開催日数	2日	1日	1日	1日
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	総会参加者	16人	16人	16人	16人
	研修会参加者	35人	14人	15人	15人
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	1人当たり補助金額	560円	560円	400円	400円
	(総事業費÷会員数)				

### 3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	
---------------------------------	--

#### 【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	恩給法や戦傷病者戦没者遺族等援護法の周知等、本来市が行う援護事務の一部を補完する役割を担っていることから必要である。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	援護事務を円滑かつ効率的に実施する上で、会員の相互扶助を行っている傷痍軍人会への補助は妥当と考える。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	傷痍軍人に対する複雑な援護制度の周知等、市が行うべきものを補完しており、補助は適切と考える。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)  該当しない		

#### 【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	研修会の開催などによる制度周知により、未処遇者は解消されているものと判断する。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	補助金の執行であり、コスト削減は考えにくい。	

#### 【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A      B      C

### 4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	恩給法等に関する研修を行い、未処遇者の解消を図るという市が行う援護事務を補完する活動を行っていることから、今後も継続的な補助が必要と考える。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	現在、事業費及び運営費を対象に補助しているが、今後は事業費補助への転換を検討する。

## 付 表

## 補助金・交付金 交付先団体等の状況説明書

整理番号	19-59
------	-------

## 【交付先団体等の概要】

補助金・交付金名	北海道傷痍軍人会札幌支部北広島市分会補助金		
交付先の名称及び代表者名	財団法人 北海道傷痍軍人会札幌支部北広島市分会 会長 伊藤 嘉朗	設立年	
構成員(団体)数	25人 (16年3月末現在)		
交付先団体等の活動目的	戦争犠牲者である傷痍軍人の生活向上を目的とした研修の実施や会員の相互扶助のほか、未処遇者に対する援護もれの解消を図ることを目的とする。		
交付先団体等の活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傷痍軍人に対する援護制度の研修会の開催</li> <li>・全国、全道傷痍軍人会大会の参加</li> <li>・恩給法等に係る説明会への出席</li> </ul>		
事務局の状況(16年度)	補助団体にある	市役所にある	
補助金等の充当状況(16年度)	運営費のみに充当	事業費のみに充当	運営費・事業費の双方に充当

## 【交付先団体等の決算・予算の状況】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	
収 入	本市補助・交付金の額(A)	14	14	10	
	札幌支部からの交付金	12	10	10	
	会費	231	206	206	
	諸収入				
	繰越金	91	97	80	
	<b>収入合計(B)</b>	<b>348</b>	<b>327</b>	<b>306</b>	
支 出	負担金	182	162	162	
	事業費	29	59	80	
	旅費	6	8	8	
	役務費・事務費	6	7	22	
	その他	28	11	34	
	<b>支出合計(C)</b>	<b>251</b>	<b>247</b>	<b>306</b>	
繰越金	<b>収入(B) - 支出(C)</b>	97	80	0	
全体支出に対する本市補助・交付金の割合(A)÷(C)		6 %	6 %	3 %	
補助・交付金の対象経費(項目)		すべての経費	すべての経費	すべての経費	
補助・交付金の対象経費(金額)(D)		251	247	306	
対象経費に対する補助・交付金の割合(A)÷(D)		6 %	6 %	3 %	
補助・交付金の算出根拠	定額 H15～H16 13,500円 H17 10,000円				